

ロンドン炎上

- (1) 1666 年当時、50 万人を超える人々がロンドンの混雑のひどい汚れた通りで暮らしていたが、その頃のロンドンはその場しのぎの都市で、外側に向かって無秩序に拡大したスラム街と化していた。
- (2) 建物や家屋の大半は木造で、多くが藁ぶき屋根だった。
- (3) 9 月 2 日に火事が発生した時、これらの資材は史上最も壊滅的な大火の申し分のない燃料となった。
- (4) 出火したのはプディング・レーンにあるパン屋からだった。
- (5) パン屋の主人が就寝前にかまどの火を消し忘れたのだ。
- (6) かまどの火の粉によって発火し、パン屋の火事が強風に煽られて荒れ狂う火事嵐となり、それがすぐ近隣の建物を大破した。
- (7) 火は 3 日間燃え続け、市の大部分を破壊し、何千もの家屋が刺激臭を放つ燃えさしとなった。
- (8) 多くの教会や店も破壊された。
- (9) 驚くべきことに死者の数は 20 人に満たなかったが、それはおそらく火事の熱によって大勢の人々が完全に焼けてしまい、見分けのつく遺体が残っていなかったためと考えられている。